

もうひとりの自分との対話

みなさんは、14年前あるいは15年前に誕生しました。そして、今中学生です。詳しくは、もう少し落ち着いた時期に述べたいと思いますが、人間として誕生して、幼少期・少年期を過ごし、多くの人が今思春期の真っ只中だと思えます。

18世紀、フランスの思想家、ジャン＝ジャック・ルソーは、この時期を「第二の誕生」と呼びました。この「第二の誕生」というのは、自我が芽生えてきて、「自分の内側にあるもう一人の自分」を意識するようになることから始まります。広い意味で言うと、「社会の一員としてどう生きるか」ということにもなりますが、それはみなさんが高校生になり、大学生や社会人となってから考えることにしてください。

みなさん中学生にとって、「第二の誕生」と言われる思春期という時期は、その後のみなさんの人間形成にとって、とても重要な時期に当たります。つまり、中学校・高校時代での過ごし方が、みなさんが将来どんな人間になるのかの大きなポイントになるということです。でも、その時期は順風満帆にはいきません。失敗したり、問題を起こしたり、まわりの人々とめめたり、まわりの人々と一緒に何かに取り組んだり、あるいは悩んだり、場合によっては劣等感を抱いたり、などさまざまな感情や行動が表れます。

みなさんは、こんなふう思ったことはありませんか？

「あんな言い方するつもりなかったのに言ってしまって後悔している。」「あんなことしてしまって、今考えれば素直に謝れば良かったのに、ついついむきになってしまった。」「クラスに友だちをつくろうと思ったけどなかなかうまくいかない。もうこんなクラス、イヤ。」「高校に行けるかどうか不安。」「他人のことなんか知らん。自分のことだけでいいねん。自己中でいいねん！」……。

そんな思いの人に、「もう一人の自分」が語りかけます。ひょっとしたら、場合によっては、友だちが声をかけるかもしれません。「そんなことないって！頑張ろう！」「もっと素直に、自分の思いを出せばいいのに。」「担任の先生に聞いてもらえば、すっきりするよ。」「自分一人で抱え込まないで！」「本当は、他人のことを思う優しい性格なのに！」……。

みなさんは、常に自分の中に「二人の自分」を抱え、その「二人の自分」は、意識的にまたは無意識的に常に語り合っています。これを葛藤と言います。そして、さらに、そんなみなさんが、一日の大半を過ごしているのが、この学校です。三中での生活です。

三中での生活でどんな力をつけるか

三中を卒業するまで、あと4ヶ月と少しとなりました。現在、自分の希望進路実現のために毎日努力していることと思います。また、不安に押しつぶされそうな人もいるかもしれません。また、二者懇を通して、もう一度仕切り直して希望進路を検討している人もいるでしょう。そういう中で、三中で、つまり中学校卒業までにつけておきたい力とは何でしょう？学力はもちろんです。それと同じくらいか、それよりもっと大切な力とは何か、「人とともに生きる力」です。みなさんはやがて社会の中で生きていきます。そのことを見通して、大切な「人とともに生きる力」をつけるために、中学校卒業までに身につけるべき力、学ぶことは大きく三つあると思います。

①人間っていろいろな人がいるということ。いろいろな違いがあることを知る。

②人とともに生きることの基本的なルールを身につけること。

③人とともに生きるために必要な基本的な力を身につけること。

まず、①についてです。

「人はみんな違う」と、みなさんは幼い頃から何度も何度も教えられてきていると思います。また、外見のことを取り上げていろいろと言うことについては、人権侵害であることを厳しく言われたきたことと思います。「人それぞれ違う」「人間は、それぞれ違いがあっていい」ことを本当に分かっている人は、その違う人のことをリスペクトできる人です。『人それぞれ違うから、自分と違う人、気の合わない人とは関わらない』から、その人のことを悪く言ったりもしない』という態度は、リスペクトではありません。ただ世界を隔てているだけのことで

②についてです。人間が社会的な生き物である以上、ケンカになったり、トラブルになることは当然よくあることです。そのための解決の道筋を知っておく必要があります。何よりも大切なのは、面と向かって話し合うことです。トラブルの原因になったものは何か、お互いにどういうつもりで何を伝えたかったのか、相手に対してどういう願いがあるのかについて理解し合うことです。もし自分が間違っていれば、それを反省する。但し、世の中でもよくあることとして取り上げられるのが、“土下座”です。皆さんは“土下座”の意味を知っていますか？“土下座”とは、相手に服従（命令や意思に従うこと）することを誓う行為であって、反省や謝罪とは無縁な行為です。暴力や脅しでは、トラブルは解決しません。必要に応じて、第三者に立ち会ってもらって、調整役になってもらうことも一つの方法です。以上述べた解決方法は、決して簡単ではなく、人としての力が必要です。

そして、その人としての力が③です。人とともに生きていくために必要な基本的な力を身につける。このことは正直言ってとても難しく、死ぬまでずっと身につけるために努力が必要だと思います。かく言う私自身もまだまだ修行中です。

現段階で皆さんに言えること、それは、以上述べてきたことを学ぶのに最適な場所の一つは、今の日本では、学校です。真実や科学……特に受験用の知識……を学ぶということは学校以外でも塾や予備校でもできます。でも、他人同士、つまり、人とともに生きることの喜びや苦しさ、楽しさや難しさを学ぶ場は学校しかありません。教えあって学習すること、みんなで体育大会や三中祭に取り組むこと、クラブ・掃除・修学旅行・休み時間の友達とのおにごっこやおしゃべり……それらがすべて人とともに生きるとはどういうことなのか、何が必要なのか、どんな力があるのか、何を大切にしなければならぬのか、……そういうことをすべて実際に体験したり学びあったりしているわけです。社会に出たときに、どうしても身につけなければならない大切な力を、今みなさんは身につけようとして仲間とともに学校で学んでいるのです。これまでの三中での生活をふまえて、これからの希望進路実現に向かっていくみなさんが、人として大切な力を身につけてくれることを切に望んでいます。

